

～目次～

1. TKK活動
2. 関連団体の活動
3. 行政等の活動
4. TKK役員より

【1】TKK活動

**

- 東京都に高次脳機能障害に関する「予算要望書」を提出、
8月21日（木）午後要望書は次のページにアクセスし、PDFでご覧下さい
http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=21
- 自民党都議会議員団との懇談、8月28日（木）午前
NPO法人化の後の活動、特に上記の要望書を中心に説明しました
□
- 公明党都議会議員団との懇談、9月4日（木）午前
NPO法人化の後の活動、特に上記の要望書を中心に説明しました
- 高次脳機能障害者のための「ボランティア(支援者)養成講座-2-」
～脳と心のリハビリ～
TKK主催、キリン福祉財団助成、都身障・都社協後援、調布ドリーム協力
10月5日(日)10:00～16:30、於：東京都心身障害者福祉センター、
9月15日時点で定員を超える申込みを頂きましたので、申込みを締め切る。

【2】関連団体等の活動

**

- 「葛飾区の高次脳機能障害者ボランティア養成講座」
 - 8月9日(土)「高次脳機能障害者のコミュニケーション」講師：後藤美加先生
どうか意思の疎通ができそうな方とのコミュニケーションの取り方でした。===家族会の失語症の方は、もっともっと深刻です。後天的に耳が聞こえなくなって等失語症の方とは、また違って複雑なからみ合いがあると思いました。=== 山寄(記)
 - 9月6日(土)「高次脳機能障害者のリハビリ」、講師：渡邊修先生
===医療現場の患者さんの生活行動を、ビデオを通しての高次脳機能障害の説明でした。=== 山寄(記)
 - 10月4日(土)「高次脳機能障害者の心理」、講師：吹谷智佳子氏/對馬依子(臨床心理士)
- 調布ドリーム「ドリームサロン」
～高次脳機能障害を、知ろう、語ろう、もっと身近に～
10月9日(日)13時～、調布市総合福祉センター2階
講演：「脳機能画像から見る高次脳機能障害の対応」
慈恵医大第3病院 リハビリテーション科医師 粂間剛先生
□
- サークルエコー10周年「みんなで大いに語ろう会」、
10月18日(土)午後、富士高原ファミリーロッジ

【3】行政等の活動

∞
**

●厚労省助成20年度障害者福祉事業「発達障害児(者)および高次脳機能障害児(者)の家族を対象としたコールセンター設立に関する調査研究」検討委員会

8月9日(土)夜、

於：(財)パブリックヘルスリサーチセンター <http://www.phrf.jp:80/zai/index.html>
=== 事業の目的と効果の概要(細見なりの解釈ですが...)

初めて直面し不安な状態の、発達障害児(者)および高次脳機能障害児(者)の家族が、最初にアクセスする、最良の質の高いコールセンターとして機能すること。

つまり「信頼できる、全国どこでも同じレベルの情報が提供される、悪質な情報による被害を防ぐ。1回で適切な相談員や専門家にたどりつける、etc.....」今回は第1回目と言うことで、データベースを蓄積するための、ニーズ調査や資源調査などについての討議がなされました。 === 細見(み)記

●区西北部(豊島区・北区・板橋区・練馬区)地域ネットワーク連絡会、

9月16日夜、 於：都立豊島病院

=== 各医療機関・各自治体等における取り組み状況は・・・

昨年からのネットワーク連絡会が各二次医療圏域においてスタートし、都身障が力を入れていることで、回を重ねるごとに出席者が増え、関心度が高まっていると感じることが出来ます。

当初のような「高次脳機能障害者は我が区にはいませんいません」、「今は特に何もやっています」というところは皆無で、頼もしい限りです。それぞれの病院が急性期、回復期リハが順調に進むことで納得して(?)退院でき、その後家庭・地域に戻ったときに、これから先長く続く、生活をどれだけ自分らしく生きていくことができるかは、ひとえに福祉サービスの充実にかかっています。以前に比べると高次脳機能障害者に対する取り組みがなされるようになってきました。

しかし、家族にとって納得できると感じられるサービスとはまだ言うには大きな隔りがあります。家族にとって最初に会える医療機関、特に精神科・神経内科領域の医師の対応がまだ不十分です。都として医療機関への徹底を、また他の自治体の取り組みも参考にして、福祉サービスの充実に向けての取り組みなど、家族の要望として話してきました。 === 太田 記

□

●厚労省助成20年度障害者福祉事業「発達障害児(者)および高次脳機能障害児(者)の家族を対象としたコールセンター設立に関する調査研究」検討委員会

9月26日(金)10:00~12:00

於：(財)パブリックヘルスリサーチセンター

=== 家族への支援の実態に関するアンケートについての座談会

学校に通っていない人、家族会などに入っていない人こそ本当に困難なニーズを抱えているのではないか。

アンケートには出来るだけ多くの人々のデータを集めたいが、アンケートに答えてくださる方はいつも同じ。配布方法に工夫をしなければならない。

発達障害児・者の関係者の方たちのお話、1歳半検診でアスペルガー症候群だと告げられ、その後どういふ支援があるかという提示が無いまま放り出された感じがある。若い親はネットで調べ情報過多過ぎて混乱状態にある。

また、最近は家族の形態が随分変わってきたように感じられる。電話相談で、定年で毎日家にいるようになって気付いたのだが、72歳の夫がどうもアスペルガーのようなのだが、どうすればよいかなどと笑い話のような、笑い話にできないような話があるそうです。話し合いが進むにつれ、狭間の狭間に落ちている状態の頷きあうことが多いと感じた会合でした。 =====太田 記